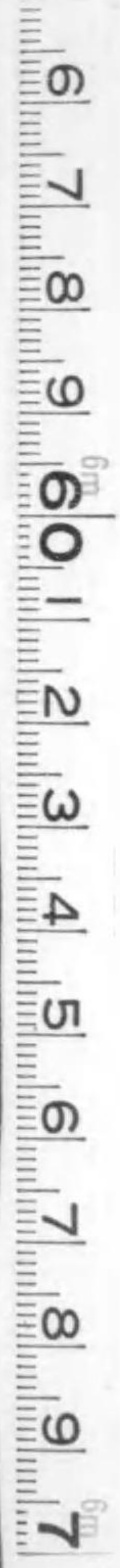


327
790



始



長林式改良發明農蠶經濟全書

自序

夫れ農蠶の業は國の本をなすの實業にして 實業は實地の仕事なり。
鐵鎌を手に持ちて田畑の土に親み 實地に就きて修むるの學問なり。
而して學理と實驗とは車の兩輪の如く相伴はざる可からざるは 論を
俟たず。學士博士の論說も偶々實際に適應せず 徒に机上の空論と
て却つて 農夫の笑ひを招く滑稽事あり。田間無學の一匹夫の言 天下
の學者を驚倒せしむる事 無しとせず。世の中に實驗の收穫程誤らざ
る的確なる事實は無し。

予田間に育ち眼に一丁字無き無學者と雖も 三十年間實地に修得せる
地上の學問は在來の農蠶業を改良發明する事 蓋し鮮少ならず。衛生
に經濟に家を興し國を富ますを目的とせり。



大正
5. 1. 28
内交

記す所文拙にして法に適はずと雖も 書中偽りなく飾りなく其所懐を
赤裸々に發表せるを幸に諒として讀まれん事を切に望むものなり。

大正五年一月

著者 長林三之助

又曰く

此書一冊を求めて。農家の座右の銘とせられよ。金たまる法。農家
經濟法。修身處生の秘訣。堆肥農法。其他一切農蠶業實驗談等一生
の試し事あれば農家の羅針盤手引草として 虎の巻なればよく見て
實行する事肝要なり。依つて此秘書は人に貸す事を禁ず。澤山製本
するものにあらざるなり。

大正五年一月

著者識るす

禮 狀

恭 啓

貴下愈々御健勝にて農業界に御熱心御盡力の段奉欣賀候。扱御手作の玄米當地に稀なる精
良の品質と存じ水車にて搗上げ候處豫想以上に榊量増加し私水車營業開始以來の最好成績
に有之是を需要者に頒ちて販買致し候處飯に炊ぎて殖に殊に味の良き事舌鼓を打つばかり
なるこの賞讃の辭を辱ふし候に付斯く良米を穫るには如何に耕作するものなるやに付き一
夕貴下を招きて實驗談拜聴致し候に貴下は明治十八年以來茲に三十年實驗に實驗を重ね苦
心に苦心を積みて『十年作り返しの種類法、蒸發氣付堆積肥料及び河川肥料の施用法、
味よき米の作り法』等數十項に亘り説く所金科玉條ならざるは無し斯く良米を穫たる豈偶
然にあらず實地經驗改良發明の賜物なるを知り農界の偉として敬仰措く能はず農は國の大
本にして米作の事は國民の生命に關する處之が改良發達に貢獻せらるゝ貴下の辛勞を酬ひ
ん爲聊か慰勞として金壹圓を贈呈仕り候間何卒御受納被下益々實業に奮勵努力せられ度奉
希望候先は味よき米の御禮旁々農事獎勵の爲め蕪辭を連ねて一書を貴下に呈し候勿々敬具
大正四年八月三十日

諏訪郡玉川村北久保

米穀商 矢島傳之助

同郡原村柏木

長林三之助殿

長林式改良發明農蠶經濟全書

目次

- 一 長林式堆積肥料の說明
 - 一 其田の藁で其田を肥やす
 - 二 積むが目的ではない腐らせるが目的
 - 三 廢物利用と衛生法
- 二 長林式堆積法附記
 - 一 長林式堆積法の秘訣
 - 二 積場所の撰定
 - 三 地拵え法
 - 四 堆積法
 - 五 注水法
 - 六 蒸熱肥料
 - 七 積換法
- 三 堆肥施用法
- 四 畑肥と厩肥との比較
- 五 堆肥と厩肥との比較
- 六 河川肥料
- 七 田の畦に穴あかぬ秘傳
- 八 味のよき米を作る法
- 九 穂稗の種を絶やす法
- 十 苗代の小糠虫驅除法
- 十一 健全なる苗の仕立法
- 十二 附青味泥の驅除法
- 十三 良き米を穫る法
- 十四 癖のつく稲を治す法
- 十五 田の草の採り法
- 十六 附田の草を切らす法
- 十七 田の水持をよくする法
- 十八 附止水の事
- 十九 附出穂を急がする法
- 二十 附薊敷の肥効
- 二十一 薊敷の切らす法
- 二十二 薊敷の切らす法
- 二十三 薊敷の切らす法
- 二十四 薊敷の切らす法
- 二十五 薊敷の切らす法
- 二十六 薊敷の切らす法
- 二十七 薊敷の切らす法
- 二十八 薊敷の切らす法
- 二十九 薊敷の切らす法
- 三十 薊敷の切らす法
- 三十一 薊敷の切らす法
- 三十二 薊敷の切らす法
- 三十三 薊敷の切らす法
- 三十四 薊敷の切らす法
- 三十五 薊敷の切らす法
- 三十六 薊敷の切らす法
- 三十七 薊敷の切らす法
- 三十八 薊敷の切らす法
- 三十九 薊敷の切らす法
- 四十 薊敷の切らす法
- 四十一 薊敷の切らす法
- 四十二 薊敷の切らす法
- 四十三 薊敷の切らす法
- 四十四 薊敷の切らす法
- 四十五 薊敷の切らす法
- 四十六 薊敷の切らす法
- 四十七 薊敷の切らす法
- 四十八 薊敷の切らす法
- 四十九 薊敷の切らす法
- 五十 薊敷の切らす法

- 五 遅れ蠶を早く休ませる法
- 六 繭の解舒を良くする法
- 七 大團扇使用養蠶法
- 八 給桑十徳の法
- 九 蠶飼つて金ためる法(一名養蠶經濟)
- 十 蠶糞の始末法
- 十一 蠶糞の始末法
- 十二 蠶糞の始末法
- 十三 蠶糞の始末法
- 十四 蠶糞の始末法
- 十五 蠶糞の始末法
- 十六 蠶糞の始末法
- 十七 蠶糞の始末法
- 十八 蠶糞の始末法
- 十九 蠶糞の始末法
- 二十 蠶糞の始末法
- 廿一 蠶糞の始末法
- 廿二 蠶糞の始末法
- 廿三 蠶糞の始末法
- 廿四 蠶糞の始末法
- 廿五 蠶糞の始末法
- 廿六 蠶糞の始末法
- 廿七 蠶糞の始末法
- 廿八 蠶糞の始末法
- 廿九 蠶糞の始末法
- 三十 蠶糞の始末法
- 三十一 蠶糞の始末法
- 三十二 蠶糞の始末法
- 三十三 蠶糞の始末法
- 三十四 蠶糞の始末法
- 三十五 蠶糞の始末法
- 三十六 蠶糞の始末法
- 三十七 蠶糞の始末法
- 三十八 蠶糞の始末法
- 三十九 蠶糞の始末法
- 四十 蠶糞の始末法
- 廿四 農家の經濟法
 - 一 早起と朝寝の比較
 - 二 農家一戸の生活計法
 - 三 子供七人の生活計法
 - 四 貧乏人の生活計法
 - 五 借金を切る法
 - 六 學校用品の經濟法
 - 七 日本國民の經濟法
- 廿五 無い物づくし
 - 一 づくなき人の暮し方
 - 二 早降きにお濕りなき時
 - 三 雨降きにお濕りなき時
 - 四 蠶盛りに人なき時
 - 五 遊び過ぎて金なき時
 - 六 農事仕付に金なき時
- 廿六 植樹園藝秘傳
 - 一 一反歩十割の試作法
 - 二 植木を根づく法
 - 三 植木を根づく法
 - 四 大根の種蒔き法(早年に必ず生る法)
 - 五 菜の肥料六甘き南瓜を澤山成らせる法
- 廿七 修身處世の秘訣
 - 一 修身訓言
 - 二 家庭教育子供の仕付方
 - 三 百性の朝仕事
 - 四 日本男兒の本分
 - 五 選挙運動の經濟
 - 六 月給取の經濟
 - 七 境界論と畔堀
 - 八 電氣泥棒
 - 九 火の用心
 - 十 木賊の用心
 - 十一 金たまる法の金言
 - 十二 注意事項五箇條
 - 十三 注意事項五箇條
 - 十四 注意事項五箇條
 - 十五 注意事項五箇條
 - 十六 注意事項五箇條
 - 十七 注意事項五箇條
 - 十八 注意事項五箇條
 - 十九 注意事項五箇條
 - 二十 注意事項五箇條
 - 廿一 注意事項五箇條
 - 廿二 注意事項五箇條
 - 廿三 注意事項五箇條
 - 廿四 注意事項五箇條
 - 廿五 注意事項五箇條
 - 廿六 注意事項五箇條
 - 廿七 注意事項五箇條
 - 廿八 注意事項五箇條
 - 廿九 注意事項五箇條
 - 三十 注意事項五箇條
- 廿八 農村改良策(龜腹アゲド)
 - 一 河川道路の改良
 - 二 住所庭園の改良

- 三田園森林の改良
- 四神社墓地の整頓
- 五共同水道及共同貯水池
- 廿九農家天文學
 - 一自分試し天氣豫報
 - 二太陽の色
 - 三慧星だめし
 - 四空氣窒素の事
- 三十諸良法の傳授
 - 一初摺臼軽くむける法
 - 二裁縫用鉄を研ぐ法
 - 三理髮用髮剃を研ぐ法
 - 四料理用庖刀を研ぐ法
 - 五專賣物購入秘法
- 卅一伊勢鑑
 - 一伊勢參宮利生ある年の事
 - 二伊勢參宮せざる年の事
 - 三伊勢參宮忌服の事
- 卅二男女相性名づくし
 - 一男相性名づくし
 - 二女相性名づくし
- 卅三男女相性名づくし
- 卅四諸病家庭療法
 - 一酒二日酔の藥
 - 二蛇にかまれたる時の藥
 - 三鼠にかまれたる時の藥
 - 四痔の藥

- 五天痢病の藥
- 六液臭の藥
- 七魚の目を治する藥
- 八小通通せぬによき藥
- 九大便通せぬによき藥
- 十麻病の藥
- 十一漆かぶれの藥
- 十二霜焼の藥
- 十三痰の藥
- 十四霍亂の藥
- 十五耳たれの藥
- 十六耳の穴へ虫の入りたる時の藥
- 十七痛齒の藥
- 十八虫齒の藥
- 十九頭痛の藥
- 二十打折の藥
- 卅五農村の俗謠

長林式改良發明農蠶經濟全書

第一 長林式堆積肥料の説明

(一) 其田の藁で其田を肥やす

長林式堆積法は其の田の藁を其田へ積んで其田へ施すのであるから材料の集散と云ふことに便利である。

秋穫後野拔場の藁を凡一反歩に一箇所の割合で積むのであるが最初瘠地で肥料分少なき田へは其田から生じた藁は全部積んで施すも年々この堆積を繼續するに於ては年毎に順次積藁の量を減して五年七年十年と經過するに至らば田は漸々に肥へて來るので遂に積藁の量は四割より五割を減しても稻は充分に熟るのである。

これは私が三十年來の實驗に徴して明かなる事實である、かくなりたる時は堆肥農法の完成した譯で始めて我が長林式農法の理想の域に達した次第である其田の藁で其の田を作ることを云ふ事は金肥節約の要件であつて農家經濟上大いに奨励すべき事柄だらうと思ひます。

(二) 積むが目的ではない腐らせるのが目的



堆積肥料は堆積々々云つて積みさへすればよいと思ふのは間違である。如何に四角四面に立派に積んだとて積んだだけでは効能は無い。よく隅から隅まで腐熟させなくては駄目である。長林式堆肥は積むが目的でない。よく腐らせるのが目的だ。多くの手数をかけて四角四面に積上げ小屋がけをしたりなどする面倒は省く事にして要はただよく腐熟させると云ふのにある。

(三) 廢物利用と衛生法

農家が庭内又は家屋敷の掃除をした掃溜塵芥等を河川に棄てるのはよくない習慣である。衛生上甚だ憂ふべき事である。これ等の塵芥は堆積して肥料にするが得策である。廢物を利用して肥料とし且衛生上にもよいのであるから實に一舉兩得の事である。塵も積りて堆肥の山となるでは無いか。

第二 長林式堆積法

(一) 長林式堆積法の秘訣

前にも述べた通り積むに多くの手数を要せずしかも積んだものよく腐熟すると云ふ事が

長林式の秘訣である。其秘訣は先づ野扱場の始末であるが第一に積場所の撰定である。

(二) 積場所の撰定

積場所は第一に乾燥の場所を撰ばねばならぬ。濕地は冷えて居る故に地熱に乏しきを以て蒸熟を醸す事が少ない。故に乾き間がよいのである。第二には材料を集めるに便利な場所を撰むのである。之は野扱場の附近がよい。田の片隅では積んだり擴げたりするに餘計の手数がかかる。

(三) 地拵え法

積場所の撰定が出来たならば其積まんとする容積に應じて其敷の肥土をまくる事凡五寸其まくりたる土は土手の如く周圍に積立てるのである。かくすると五寸掘りて一尺の凹みとなる。そして其周圍には四方に柄杓の這入る位の穴を掘り置く事が必要である。

(四) 堆積法

地拵えが出来たならば愈々葉を積むのである。葉は根元を外面に穂先を中に向けて積む。かくすれば雨水又は注ぎ水がよく中へ傳はつて込み込むのである。葉を積む事約一尺にして其上へ糞糞若しくは精米糠等腐熟を助ける合草を入れ猶干草などを合はせ積むのもまた妙

である。斯く材料を順次積みあげては泥水を注ぎ泥水を注ぎては材料を積み上げ積み終りたる時は其周囲及び上部に古菰莖等にて日光に曝さぬ様に蓋をかけ置くのである。又材料を悉皆積上げた後水を注ぐもよい。高さ三尺に積み上げたものは二尺に減する程度に水をかけ腐熟せしむべし。

(五) 注水法

堆肥には是非共水を注ぐ事が必要である。其水は清水よりも泥水がよい。清水ではさ抜けがしてよく積草に泌みて居らぬ故に泥水を注ぐ方がよい。積場の附近に堀にて水を引き水を掘りて水を湛へ柄杓にて攪拌してにござせて注ぐのである。其の注ぎ方は前に堀り置きし周囲の孔に泌み出た水が溜まるを程度とする。

其の溜り水を再び柄杓で注ぎかけるがよい。かくして五六日乃至十二三日間を經過すれば蒸熱作用を起すものであります。

(六) 蒸熱肥料

積上げた堆積物が普通十日以上を經過して蒸熱作用を起すのを茲により早く且つ完全に蒸熱作用を起す秘法があります。これが長林式の秘傳であります。

其秘法は蒸熱肥料といふ(一名堆肥腐熟劑)を使用するのである。此蒸熱肥料を用ふる時は堆肥を早く完全に腐らせ効能を一層著大ならしむるものであります。

積方が拙い爲に幾日經過しても蒸熱作用を起さぬ時は此の腐熟劑を用ふると一夜にして蒸熱を醸し翌朝は濛々と蒸氣の立ち騰るを見るに至るのであります。

(七) 積換法

堆肥の積換は是非共しなくてはならない。先づ其時期は春雪解の候三月中旬頃である。其方法は周囲を取つて中へ積み中を取つて外へ積み若し水分少なき時は水又は薄肥を注ぎ且つ石灰、過磷酸等を混入すればよく腐熟し肥料分を適さず又窒素と磷酸との配台上にもよろしいのであります。右の通り三月中旬に積替へをなす時は申分のない立派な堆肥となるのであります。

附記 著者は農事熱心家の御依頼に應じて實地に堆肥の製造に従事指導致します。そして積み終つてより五日目には是非共一回視察の爲に巡回します蒸熱作用の宜しき時には各位に向つて通知を致します。通知があつたならば其後一回充分泥水を注ぎて下さい。

第三 堆肥施用法

堆肥を施用するに當りては先づ田代を丁寧になし田面を平らかにし菰又は船にて曳きあるきながら萬遍なく擴げるのである。田の水は成るべく小水にして上げ代は輕くなし堆肥の深く土中に沈没せぬ様に注意するのです。又之を擴げるのに積場の附近へは萬能鋸の齒にかけて曳けば手早であります。堆肥を施用するには田の深耕はよくありません。深耕は肥料の効能を遲鈍かし従つて作物遅れていけません。殊に堆肥農法に於ては深打はよくありません。併し砂土は少し深くてもよろし。堆肥が年々過ぎて爲に耕土が輕くなりたる場合には新土を入れるか又は深打をするも宜しいのであります。

第四 畑堆肥

堆肥は管に田にのみ施用するものではない。畑に用ひても亦大効があります。養蠶の簇殺生草落葉の類へ糞糞米糠石灰又は過磷酸を混じて堆積するのであるが、水に不便の畑に於ては永溜の土壺を掘り夕立の雨水を溜めて之を注ぐ事にするがよい。夕立の雨水には空氣

中の窒素が含まれてあるから肥料分が多いのであります。空氣中の窒素を堆肥に吸収する事は誠に妙法ではありませんか。若し又土壺の設備が出来て居ない所は雨天を俟て堆積するのであります。材料をよく雨水にしめして積み周圍を高く中凹に積む時は降雨の度に雨水が中へ沁入るのでよく腐熟させる事が出来ます。

第五 堆肥と厩肥との比較

厩肥は厩舎より搬出し直に其のまゝにて施すは効が少くない。況んや之を日光風雨等に曝らして後に施すは猶更効を失はしめる。これは是非堆積して後に施用するが最も肥効があります。

併し堆肥に比較して何れがよいやと問はば著者は實驗等に於て左の如く説明いたします。先づ一俵地の糞と云ふ物は畝取一俵の場所でも又は五十坪一俵の場所でも大抵四把ときまつたものです。此四把の糞は厩肥にするときは馬付二駄となりませす。一俵地二駄の厩肥では肥料として不足を告げます。四駄よりも五駄を施さなくては實驗に於てよくありません。然るに堆肥にする時は其の田の糞で充分であります。毎年之を續ける時は順次減じてよ

ろしいのであります。されば厩肥よりも堆肥の方が遙かに有利である事が解りになるで
ありませう。

第六 河川肥料

田畑の畔を三四坪掘りて河川の流れを引きて河水と共に流れ来る落葉塵芥等を溜め春分に
至りて水を切り溜りたる泥土を上げて田畑に撒げ耕作する時は其効力が顯はるゝものであ
ります。また此泥土に混ぜただけの肥効分があるか云ふ事を試見するには大豆を試作すれ
ばわかる。其如何に大豆の豊作なるかに見て明かである。猶又此河川の流水を乾燥せる草
野に灌溉する時は土地肥沃となり滅切と草は生長繁茂するのである。且又其草は肥料分が
多い。斯かる所を開墾して桑園となし又は穀類野菜等を作れば非常に好成績を表すもので
ある。

第七 田の畔に穴のあかね秘傳

田の畦に孔の明く方面は大抵定まつて居る。水道に接近せる所及下畦等へはよく穴が明い

て水と共に肥料分を流失し爲に田が干て亀裂を生じ稻の生理を害するのであります。之を
防ぐには畦を塗る時によく注意して穴ある時はよく掘りて藁の打すべと粘土とをよく練つ
て五六倍ばかりの玉をこしらへ穴の所へ押あて、堅く踏込み土を返してもこの姿にし塗上
げ置く時は後に至つて穴のあく憂はありません。打すべの無き時は藁をよく揉んで粘土な
き時は肥土の粘り氣ある土を練つてもよろしいのです。穴の明くは虫ケラ蟹等むぐら蛇等
の仕事であります。土用あけとなれば其害が少なくなりますから減多に孔は明きません。

第八 味よき米を作る妙法

米は吾々の常食である。其常食の米をして味をよくさせると云ふ事は愉快の仕事である。
米の味をよくさせる方法としては種の取方にあるのだ。其秘傳は粳の女穂を糯の男穂の中
へ植込みて種を取り之を十年作り返せば誠に味よき米を穫る事が出来る。これは風媒作
用によつて粳の花蕊へ糯の花粉が著く故に自然と糯の性質を帯びて來るからであります。

第九 穗稗の種を絶やす法

穂種の種を絶やすには苗代田の稻を刈取つたならば直ぐに水を張り込んで河川に關係なき所へ水を切り落します。かくすると苗代田に落ちこぼれ居つた稗種は水と共に流れ出ます。また流れ出ずに残つて居た種は數日にして發芽して其年の内に枯れて仕舞ひます。次に粗種を取るに際し成るべく穂種なき所を撰んで取つてこなしあげたる上は更に米篩にかけて篩つて稗粒を除かなければなりません。塩水撰をしても稗種のよく實つたのは浮きません。それから本田の穂種は出穂の際よく注意してこぎ採り之を道川等に捨てず桑畑の畝間に掘り込むのであります。穂種は桑樹に肥効が澤山あります。田畑の畔に打捨て置いたでは實が翻れてそれがまた田の中へ流れ込んで生ねて何時も種が絶えると云ふ事はありません。

第十 苗代の小糠虫驅除法

苗代は短尺苗代にして其周圍を凹め置き晴天の日に水を薄水に程よく干すときは小糠虫は短尺の周圍の凹みへ集まるから其所へ水を少し入れ河川の妨げなき箇所へ流し出すがよろしい。猶それにて切れざる時は又一回かくするのである。二回三回となす時は大抵驅除し

つくすものです。

第十一 健全なる苗の仕立法附青味泥の除去法

苗代をしめるには晴天の日がよろしい。人肥を多く施すのはよろしくない。苗代をこしらへるには可成春早き方がよく。諏訪地方に於ける苗採の時期は種を蒔きしより五十日目位が適度である。追肥は磷酸分多き肥料を施すと苗は強硬に生育する、それから磷酸分の多き肥料を施すと青味泥を生づる事がある。之を除去するには温間の方へ石灰を撒布して其水を苗間に流入させるとよろしい。又苗取五六日前に少しく石灰を苗間に撒布すれば長根が切れて大層採りよくなり随つて植よく取付もまた早いのであります。

第十二 良き米を穫る法

良き米を穫りたいと云ふ事は誰しも希望する所であるが先づ種類の撰擇もさる事ながら水口に糯稻を作ると云ふ事は良き米を取る一法である。これは水口の米が水奥の米とまじらぬからよい譯である苗を近植にする事はよくない大苗にあらく植える方良き米を穫れるも

のである。

第十三 癖のつく稲を治す法

地面の悪しき所には癖のつくこと云ふ事は滅多にないが肥料の加減即ち窒素中毒等で癖のつく事があります。癖がついたと思つたら稲の白根を切る事が肝要であります。其の方法は田の草を採りつゝ根を切るのであります。序だから云つて置きますが稲の本根の長さは藁の丈程あるものです。

第十四 田の草の採り法附田の草をさらす法

同じ田の草を採るにも採り法があります。晴雨にかゝわらず時期を撰ばず採りさへすればよいと思ふのは間違であります。何でも田の草採りは晴天に限る堆肥を施した田は植付後十二日目位が一番除草の好時期であります。此時田面をよく押へて平らかにするが必要で、二番草はそれより十日間をよしとします。三番草は石灰過磷酸等の追肥を施したら直ぐに田の草を採り土を掻きませるがよい。四番除草はよく稲の根を切る様に掻立てるので

ある。それより後も可成一回位は採つてそして上げ採とするがよいのです。上げ取の時期は開花の頃がよい。昔からあげ取りは花を脊負つて取ると申し傳へてあります。それから積年の田の草を切るには花盛りに採ればよい。二三年繼續して取る時は切れません。

第十五 田の水持をよくする法附止水の事

田の水持をよくするには代を丁寧にする事勿論であります。土用となりて田の湧き立つ時となれば水持ちが悪くなるものであるから此の時に田の草を採るとよくなります。それから水の變化は土用入り頃であるからそれ迄は止水する事がよろしい。土用入後は止水をするには及ばない。又春水を灌漑するは田の水持ちをよくするものであります。

第十六 稲の出穂を急がする法

稲の出穂を急がせるには末伏の頃田の草を採つて地面に窪き所を三四箇所畦を切り水を拂つて田面に亀裂を生ずる程堅く干し然る後淺水にかけ置くときは肥料分がされる爲に稲の穂は忽ちに出るものであります。

第十七 苜蓿の肥効 附きく苜蓿ときかぬ苜蓿

苜蓿に採る木の葉のうちにく木葉ときかぬ木葉とある様、しばつ、槽、栗等は効能あるも白樺、藤、柳は絶えて効能なきものである。また日向と日陰とを比較する時は日向の方遙かに肥効分に富んで居る従つて落葉も其通りでありますから堆積をするに付ても其心得が必要であります。

第十八 畑の草を切らす法

春は雪解を待つて早出にして耕作に取りかゝるがよい。畑の作間を打つ事は草の根を絶やすもととなり太陽の光線を葉の根元へ受けて發育を助ける事になります。それから雑草を切らす最良の方法は草花の咲き始めに採る事を三年も繼續してやれば根切りになります。畦畔の草は花咲く盛りに刈り取るべし。

第十九 紋斑の驅除法

桑園の紋斑病と云ふ物は當郡にては昔は無かつたのであります。近年桑の元苗により他より移つて來たもので微菌の作用で蔓延するものださうです。そして此曲物は執念くも植物の根のあらん限り地中へ深く喰込んで行くものであるから驅除法にも充分注意を要す。驅除法にも種々あるが最も簡便にして効力のある方法は生石灰を三年間繼續して撒布する時は根切となりす。石灰は肥効を助け消毒にもなるからこれを使用するのは得策であります。また改植するに當つては信夫の桑は植ぬ方がよろしい。信夫へは紋斑が著き易くあります。

第二十 稻種類一反歩十割の試作法

一反歩を一畝づゝ十に割り堆肥、厩肥、大豆、大豆粕、海産肥料、生草石灰、燐酸等を施し上圖の如く各種類を分ち植へて試作しとの間が一番利生あるやを調査し最も利生ある種類を作るべし。

澁京	毛京
長毛京	奥州坊主
新穀	宮錦
小茂	赤糯
白糯	烏糯

第廿一 稻の株数試作法

一坪 三十六株	一坪 四十八株	一坪 五十四株	一坪 六十三株
尺角	一尺ニ寸五分	一尺ニ寸七分	八寸五分ニ寸七分

最もよろしき程度に作るべし。

圖の如く各坪割に試し植へどの数が最も收穫多きかを調査し

第廿二 生草を堆積する法

生草を刈り成る可くまつめて置き刈りしまひになると積場なき所の畦草は秋蠶あがり稲をこぎ其まゝ脇に寄せ置くべし。稲實の事保険付きなり。稲こぎたるあとの田の中へ刈りまつめたる生草を堆積すべし。積み方は刈草の根本を高くうらを低くして一尺の高に積めば。蚕糞をふり其上へ少し草を置き泥水を澤山に注ぎて又其上へ一尺程積み又糞をふり泥水をかけ簾屑ある時は其間へ積込めば糞をふり泥水を澤山かけるべし。五六日経てばせい／＼と腐るものなり。太陽の光線を受けぬため古糞、簾屑、草等を覆ひて凌ぐべし。

七八日過ぎていま一度泥水を充分にかけると完全なる堆肥となるものなり。若し泥水をかける事を怠る時は水分蒸發して肥効少なき物となる。

第廿三 養蠶利生法秘傳

(一) 濕氣抜き法 (古家にて蠶大當りの秘法)

凡養蠶に、第一悪しきは濕氣なり。濕氣は病氣の始めなり。されば養蠶するものは、濕氣を抜くこそ肝要なれ。濕氣を抜くには、家の周圍へ水道を抜き、中石小石澤山に詰めよく乾くようにするが專一なり。

稚蠶飼育の間はシキへ小石澤山に入れるがよろし。かくすれば、清潔法施行の際など、板敷を離し、床下を検するに、板敷及び敷物の類よく乾き居り、蜘蛛の巣張らぬものなり。理想的に新築したる蠶室は、勿論空氣の流通もよく、従つて濕氣も少なければ、在來の天保時代の遺物即ち舊式の家屋と云ふ物は、濕氣も多く、空氣の流通も悪しければ、養蠶に適しない事は云ふ迄もないことである。併し養蠶に適しないからとて無闇に打毀して改築するわけにも行かない。よつて斯かる古家を利用して、養蠶大當りに當てるには、前述の如

く屋敷内に水道を貫き、稚鶯育の室の床下へ小石を敷き、それから椽の下の空気抜きを広く開けるが第一です。

多くの家は、皆昔家にて二階なき平家であります。平家は空氣の流通悪しく、濕風の深いものである。濕氣は夜に至れば、室中を循環するものなり。されば氣抜きは天井をあけるはよろし。外小壁を開け金網を張り置き。戸をつけ開門に便ならしめ、平常は閉め置くなり。又中に壁も成るべく廣く切り開くがよろし。かくするときは、空氣の流通をはかる事自分の意の如く出来、濕氣を抜く事自由なり。

(二) 濕氣の循環空氣の流通を眼に視る法

空氣はもと無色透明のものであるから眼で見える事は出来ません。されば空氣と云ひ濕氣と云ひ眼で見えて其流通、運動を計る事は六つかしい事でありませぬ。此所に私の發明した方法で、濕氣の循環、空氣の流通を眼で見えて計る名法があります。其方法は其室内の火鉢で、生松葉を燻ぶし、薄く煙を立て、見る時は空氣の運動する所のわかるものなり。而して平常開閉する所の戸を開く時は煙は如何なる有様を以て運動するかが見らるゝものなり。煙の運動するは即ち空氣の運動する如きものなれば、煙の運動する状態を観察して、空氣の

流通を計るべし。煙直ぐに散りて室外に流出するは空氣の流通よろしく従つて濕氣の籠らぬ証據なり。若し煙たぐみたるは空氣濕氣の籠る所以なれば、天上を切るもよし。小壁を切るもよし。よろしく空氣の流通を計るべし。空氣つまるは蠶の悪しくなる大原因なりと知るべし。

(三) 蠶室の空氣を上下平らにする法

蠶室の空氣を上下平らにする時は、蠶揃つてよく休み、揃つてよく起きるものなり。養蠶にはすべて火力を用ふるものであるが、高き所と低き所とは温度に差を生じ、空氣も違つて来るものであるから常に心がけて室内の空氣及温度を平等にする事は肝要であります。凡て蠶兒は休眼が第一です。一眠二眠は概して易きものなれど、三眠になると眠起が少し手間取れるものであります。例へ蠶兒は健全でも眠起に手間取れるのが往々あります。故に此時には特に注意して、空氣を上下平らにしなくてはいけません。其方法は私の考案で火鉢の所で大團扇を持って煽ぐのであります。そして又室中煽つて上下の空氣を平均させる時は蠶はよく一度に揃つて早く休むものであります。

大團扇なき時は、蠶籠又は蠶筵などで煽つてもよろしいので、私は實驗してありますが

大團扇が一番よろしいのでありますから皆さん之を御使用しなさい。大團扇の製法は次に示します。

(四) 蠶兒の眠起を一齊にする別法

前述の如く簞室内の空氣を上下平均にする時は蠶兒の眠起一齊になりますが、又別法として蠶兒給桑の回数毎に籠の挿換法即ち下の籠を上へ順繰りに挿換へる時は一度によく休むものであります。

(五) 遅れ蠶を早く休ませる法

同種類の蠶の中に休みの少し悪しきものあり。原因は給桑不足とて食後れが主なるものなれば、網をかけて少し桑をふりやがて網をあげて別の籠に重ね、更に新らしき摘立ての桑を與へ温度高くすれば直ぐに休むものなり。古くして水分少なく萎れたる桑を數回ふるも容易に休ます。秘傳は新らしき桑と給するにあり。

又乾きたる葉を一寸位に刻み、それを蠶産に振盪く時は濕氣去りてよく乾き蠶は葉の上のぼりて休むものなり。

凡て休手間取れるは病氣の始めにして、膿持ち、節高きの諸病は眠起の時に起るもの多け

れば右の方法を應用するがよいのであります。

(六) 繭の解舒を良くする法

養蠶家が一生懸命辛苦やつして飼上げて上結果を上げて蠶が作った其繭が、解舒の悪い爲めに製絲家が案外の損をしたり、また口挽の結果解舒が悪いと云つて製糸家に擯斥されて、爲めに折角の苦勞が水の泡となり、繭層の厚い割に値段を安くされる事があります。之れは平均大飼育にはよくある弊害でこれは改良しなければならぬ事であります。第一に養蠶家の損は云ふまでもなく、製糸家に於ても餘計の工賃をかけて儲からず、國家經濟の上に多大の損失を來すものであります。

されば繭の解舒をよくすると云ふ事は養蠶家としても製糸家とししも直接利益になる事であるから充分に注意しなくてはならぬ事であります。

さて、繭の解舒をよくするには蠶種の種類を撰擇する事が第一であります。そこで黒種は生種に比して解舒のよろしき事は製糸家の實驗に徴して明白なる事實であります。黒種はかく解舒がよいからして製糸家でも目一杯に買ふ事が出来ます。故に近來黒種は製糸家に於て歓迎する傾向になりました。黒種は常に解舒の良い許りではなく、其他にも種々有益

なる点があります。以下追つて詳しく記す事として茲には如何にすれば繭の解舒を良くする事が出来るかと云ふ点について説明することに致します。然らば繭解舒の悪くなる原因は如何なる譯かと研究して見ると、それは大要左の如くであります。

第一、上簇に際し雨降るときか又は大雨後空氣が非常に濕潤するかに因る凡て濕氣多き事
第二、一定の室内に過多の熱蠶を上簇せしめたる時即ち空氣の流通不良にして熱蠶の放尿乾燥せざる時。

第三、汚染繭、小便繭、死籠繭等多く、凡て繭の撰別悪しき時。

右の如くでありまして、第一、上簇に際して雨降るときか又は大雨のあつた後は、空氣が非常に濕潤となつて居る故に、斯かる時に、蠶の口から吐出した糸は濕氣の爲めに乾燥が遅れて粘氣強き爲めに、蚕の口から吐いた粘液が、糸に乾かぬ先に粘液のまゝ蜜着するから解舒が悪るのであります。

されば例へ晴天なりとも、室内の空氣の流通悪しく一定の室内に多量の熱蠶を上簇した場合には熱蠶の放する所の尿液が従つて多量なる爲め、乾燥不充分にて空氣濕潤となり、従

つて解舒の悪しき繭となるものであります。

汚染繭、小便繭の多く出来るのは、簇の厚いと云ふ事も原因するが、第一狭い一室内へ過多の蠶を上簇するに基くものである。

右様の次第で何れも解舒を不良ならしめるものであるから室内の乾燥を圖ると云ふ事が専一であります。室内の乾燥を圖るには第一火力を用ひ、第二空氣の流通を計り、晴天には戸障子を開放して雨天には殊に温度を高騰せしめ、以て空氣の流通をよくしなくてはなりません。これにも例の大團扇を以つて、室内を隈なく煽ぐ時は、空氣の流通によく、温度を平等ならしめ、従つて汚染繭、小便繭等がなく、解舒を良好ならしめる事が出来る實に便法であります。以下大團扇の事を述べませう。

(七) 大團扇使用養蠶法

團扇は人間の納涼に用ひ、又蠅や蚊を追ひ拂ふにも用ひ、酢を拵へる料理にも用ひますが茲には一層進歩して、本邦第一の物産、生糸の原料たる繭を作る所の養蠶業に使用して、より大なる効果を収める事を發見しました、讀者諸君も既に御存じの通り蠶兒飼育室の空氣を上下平等ならしむるに使用し、また上簇室に於て繭の解舒を良好ならしむる條項に於

横二尺五寸



縦二尺

して利益をあげる事に心を用ひなければ、勘定あつて錢足らず、くたびれ儲けの骨折損となつて、却つて國家を亡ぼす基となりませぬ。
 然らば此大團扇を製造するにはどうするか云ふに、別に面倒はありません、私の養蚕法

て前に申述べて置いた通り、蠶業上非常の効果あるものなれば、苟も養蠶家たる者は、是非とも此大團扇は蠶業部の備品として備へて置かなくてはならぬものである。私が或る蠶業の學者にこの事を相談したところ、そんな團扇よりも電氣を應用して蠶室内に煽風器を仕掛けて置いたらよからうと云ひましたが、成程煽風器は文明の利器でありまして、之を蠶室内に備付けて置いたなら、如何にも大正文明の養蠶家に相應かも知れませんが今や養蠶家の經濟はもうハイカラ的にやつて利益の湧くものではありませぬ。成りたけ經費を節約

はすべて多き利生を得るが目的で、成りたけ費用を多くかけぬのが主眼であります。だから多額の金錢を費して煽風器を求めよよりも、僅かの手間で得用の大團扇を作るのであります。之を作るには先づ丸竹を水に浸し置き、よく冷やけたる所を見計らひ取り出して長さ三尺五寸許りに切り柄のところ八寸許り残して其先を小刀にて細く割り三尺許りに擴げて細き針金にて編み其上を新聞紙にて張ればこれにて大團扇は出來上がるなり。誠に經濟輕便、實用、國益を兼ねたる重寶なるものなり。此大團扇にて上簇室を煽ぐ時は、温度は華氏九十度位迄によし。煽りたる時は戸を閉め、又少し時間を経ては戸を開放して煽ぐ時は良く空氣の流通して、濕氣を除き、室内乾燥して、汚染菌、小便菌少なく、解舒よき立派な繭が澤山收穫するものなり。

(八) 給桑十徳の法

- 一、晴天早には水分多き桑を與ふべし。
- 二、雨天には桑畑乾き間の桑を給すべし。
- 三、庭起後三日前は水分少なき桑を與ふべし。
- 四、庭起後三日過ぐれば水分多き桑を澤山に給すべし。蛹に目がつき利生あり。

- 五、三眠前は魯桑、實生、黒じく、青じく等、凡て水分多きものを給すべからず。
- 六、休眠遅れ蠶には新らしき摘立て桑を給すべし。
- 七、凡て乾燥の時は剉桑あらくして給すべし。
- 八、濕氣多き時は水分少なき桑を細切りにして薄く給すべし。
- 九、給桑前には窠室内の空氣の流通を計り窓障子を開放し充分乾燥せしめて後給桑すべし。
- 十、凡て山間丘陵乾燥の地は新らしく水分多き摘立て桑を給する時は蛹の目方殖へ貫量多く收穫し利生あるものなり。

(八) 蠶を飼つて金ためる法
一名 養蠶經濟

(イ) 大飼と小飼の比較

養蠶經濟を説くにあたり、先づ二大別して大飼と小飼との比較をなすべし。大飼果して利多きか、小飼即ち利生少なきか、予が實驗に徴して計算し、數字上に於て比較する時は左の如し。但し家族従業者多く窠室蠶具完備したる者はこの限りにあらざるも普通一般の養

蠶家にありては左表の如く大差なからん。

小飼の部 (掃立)

- 春蠶、黒種、一枚 第一期
- 夏蠶、早夏、一枚 第二期
- 同 後夏、一枚 第三期
- 秋蠶早物は利生なし飼ふべからず。
- 同 並秋、一枚 第四期
- 同 晩秋、一枚 第五期

右表は雇人を要せず、家内の者にて容易に飼育し得るものなり。雇人を多少雇入るゝ時は右表より掃立枚数を程度により増してよろし。

小飼の部 (收穫)

掃立蠶種一枚につき收穫貫量十二貫目、一貫目代金は糸量により計算して金四圓此金四十八圓也。右收入。人夫は自家の手間なれば半額と見積り此金二圓四十五錢、肥料は蠶糞、堆肥等を施し、金肥を成るべく節約する故に此金十二圓計金十四圓四十五錢也。右支出。

收支差引金三十三圓五十五錢

大飼の部(掃立)

春 蠶、 十枚、 第一期

夏 蠶、 十枚、 第二期

秋 蠶、 十枚、 第三期

大飼は小飼よりも飼育回数少なきは勿論收購質量も従つて少なく、平均種一枚に付き八貫目位を上作なりとす。之に反し小飼は十二貫以上取りとなるものなり。されば八貫目の繭代金貳拾八圓也。

但し糸目より見て小飼に劣る故に三圓五十錢と見積るなり。

人夫は少なくとも七人を要す。日當七十錢とし此金四圓九十錢。雇人口入手數料金五十錢。桂庵に支拂ふ。此外雇人に慰勞の手拭一筋此金五錢、又雇人夫一人につき一日米五合つゝ三升五合、一升代十五錢と見積り此金五十二錢五厘、合計金五圓九十七錢五厘。右の外肥料代金は八貫目の繭を取上げるに金十五圓を要す。支出合計金二十圓九十七錢五厘となる。されば收支差引金七圓〇二錢五厘なり。

大飼小飼利益の比較

大飼は三期に種三十枚掃下ろし此收購代金前表に依り金八百四十圓也。内蠶種一枚に付金一圓五十錢づゝ支拂ひ此金四十五圓也。手間代合計金百七十九圓二十五錢、肥料代金四百五十圓支出合計金六百七十四圓二十五錢、收支差引利益金百六十五圓七十五錢也。小飼五枚、繭六十貫此金二百四十圓也。

内金十二圓二十五錢 手間料

金六十圓 肥料代

金七圓五十錢 蠶種五枚代

計七十九圓七十五錢 收支差引利益金百六十二圓二十五錢

差引利生は右表の通りであるが猶大飼は此外に蠶具の入費其他經濟上に於て前表以外餘分の經費のかゝるものなれば大飼は比較的利益的の少なきものであります。

(十) 蠶業の始末法

養蠶家に於て、蠶兒の盛食期に際し、極めて繁忙を極めつゝある時期にさしあたり、殊に雨天の時など一番始末法に窮するのは蠶業であります。蠶業を何時迄も蠶室の附近に堆積

して置くのは、蠶の衛生上にも害があり、又蠶糞その物の肥効分を少なくするものであるから、蠶糞をよく始末する事は肝要であります。

扱、蠶糞の始末を早くつけるには、玉石灰をよくほかして撒布し、猶、稿、麥稈、萱、及桑若すい等を二寸位に刻み、之れを混交て、晴天なれば一日乾して、後俵に入れて貯蔵するのであります。又貯蔵するに際しては成るべく濕氣の浸潤せぬ様に積むべし。多く積む時は其間に桑ボヤを置くがよし。猶、蠶糞俵は入れし時より一二日間、小口立てにして置く方安全なり。斯くして貯蔵し置く時は其肥効を消失せしめず、又蒸熱を醸す憂もなく、至極早埒に始末が出来て簡便有利であります。例へ白く乾きて一見蒸れたる如くに見ふるども決して肥効が薄くなる様な事はありません。

第廿四 農家の経済法

(一) 早起と朝寝の比較

朝早く起きて働く人は身体健康となるばかりで無く、経済上大の利生を得る物であります。今之を時間に計算し更に時間を金に積つて見ますると驚くべき大層な金高となります。一

日に朝一時間づつ早起をして働く人は一年に参百六十五時間になる。一日労働時間を十二時間とすれば三十日と五時間餘計に働く譯となる。今日の勞銀四十八錢とすれば一年に金拾四圓六拾錢此人が十五歳より五十歳迄三十五年間此金五百一十一圓となる。されば朝寝坊する人一時間づつ普通の人より遅く起きるとすれば此金五百一十一圓この差額は千二十二圓となる。早起と朝寝との比較は實に一生一代に千圓以上の違となる。何とたいした物ではありませぬか。所で明治十五年頃前の人は概して早起の者が多かつたが以後は段々朝寝する人が多くなつて来て今時の若き者は皆寝坊で親は百遍起しても起きはせず一代の疵であります。朝寝宵詰は癖のものである。宵詰して朝寝する者も早寝早起する者も眠る時間は同じものなり。されば宵詰するは貧の本一家の主人となる時は朝寝は悪いと身に泌みる。

(二) 農家一戸の経済

夫婦の者一年参百六十五日の内休み日、雨降、盆、正月、其他隙入六十五日差引三百日夫は一日金五十錢づつの日當此金百五十圓也妻は一日に繭三升づつ取りて一升取り賃金五錢一日十五錢一年四十五圓也合計歳入金百九十五圓一日に米一升五合を要す此代金貳十錢一ケ年五石四斗七升五合此代金七十三圓御シキセ一日に二合呑む人は一合五錢一日に十錢一

年に七斗三升此金三十六圓五十錢煙草代一日金一錢此金三圓六十五錢著類一日金一錢此金三圓六十五錢炭薪油で金一錢づつ此金同じく三圓六十五錢家賃一錢此金三圓六十五錢上納は五厘此金一圓八十二錢五厘子供一人一錢此金三圓六十五錢學校生徒一人一日金二錢此金七圓三十錢歲出計金百三十六圓八十七錢五厘差引金五十八圓十二錢右を卅歳より五十五歳迄廿五ヶ年間積む時は金千四百五十三圓となる。

(三) 子供七人の活計法

貧乏人の子澤山七人子供のあるとせば先づ長男は家に居て人の勤をするものぞ。家業勵みて怠るな二男は八月奉公に他人の家の飯喰はせ農業蠶業習はせて冬は寒天、氷餅、氷豆腐屋へ奉公しろ。永豆腐の製造は農家の副業に利益ある。堆積肥料も出来する。三男は夏は八月の勤めをし、冬は東京に出稼し大きな問屋に口入れし半期奉公するがよい、稼いだ金は貯金しろ何か天職覺へんとするなら駿河の國へ行き傘屋へと年期して傘製造を習ふべし。それ傘と云ふものは雨天になくてならぬ物させば破れていけぬもの傘修繕も國の爲世の經濟になるものよ。長女は農業の家に置き春は田畑の手入事夏は養蠶熱心に秋は稻作取揚げに一生懸命働かせ冬はお針を習はせて良妻賢母に仕立つべし。次女は夏分農業の家に

八月の奉公させ冬は町場の水仕に出しお針や行儀を習はせろ。三女はお針仕事に出すがよい。洋服、外套、コート類流行品の仕立法覺へる爲に年期は長くよく覺え先生となりて弟子を取り裁縫教授をするがよい。四女は心定めて製糸家に行くなら堅い製糸家に行かぬと工女拂ひが悪るい給金高く定めても製糸を休めば○は取れぬ。くたびれもうけの丸裸○

(四) 貧乏人の生活法

夫婦貧乏で暮すなら男は日傭取りがよい。女は弱きものなれば日當取りより脊負商をするがよい。女は平均男よりまでで細かきものなれば必ず利益有るものよ。男は日々に日傭取り女は行商で金儲け夫婦和合で共稼ぎ稼ぐに追付く貧乏無し安樂世界に世を送る。

(五) 借金を切る法

有る様で無いが貸金で無い様であるが借金ぞ。借金ある人無盡をするは間違り。無盡は讀んで字の通り借金盡き無い。無い盡くし多くの人の無心云ひ連衆に頼んで無盡發會するまでに一割以上の入費がかかる。無盡は堅い借金となる。人の生れは元裸無盡終はれば其金は借金となる者多し。凡そ人の家借金出来し其時は蠶上がりの景氣よき時を見計らひ上田を賣拂つて支拂ふべし。其殘金は遞信省に貯金して事をまつめて小さく暮らし十年経過す

るときは田地の下落する時あり此時貯金を拂下げ田地買入る其時は元の身上になざるなり

(六) 學校用品經濟法

學校生徒は紙を買ふ筆を買ふとて其時々親父に錢をねだるものねだるたんびに錢與へれば何時でもあるものと親父のすねをかじるなり。こうなれば段々錢使い荒くなり錢はいくらでもあるものと思ひ金の位妙を知らなくなるから學校用の品物は置上がりの金ある時に共同にて一時に多く買入れて取扱人に渡し置き錢で渡さず品物で渡すなり其次からは紙は書きくづしの紙と交換に筆は使つた古筆と交換に渡すなり、かくする時は筆や紙を粗末に使用せず又なくしたり捨てたりする事なく經濟よし。

又學校用品は講にて買入れとか親類まきにて買入れるとか上中下の組にて買入れるとか小さな村は耕地にて買入れ小さな通帳で主人をきめて名々にわかる様にすべし、この用品は筆、すみ、えん筆、手紙は大値で買えば安きものなり此の法を取るがよし。

(七) 日本國民の經濟法

人と生れては吾が一代に何か一つ經濟法を考へろ。作物を作るとか、肥料を製造するとか何か利生の專賣法を考へなくてはなりません。日本國は時勢に後れて外國との交易に劣る

總べて外國は上等舶來の物を賣り出す故に國が富むものなり。我が國は歳出多くして歳入が少くない。十年間には何億萬の歳出なるや人民は金を取るより出さぬ法を講ずべし。國の疲弊は人民の苦しみ上納は増すばかりなれば土地より作得を上げろ。

第廿五 無い物づくし

凡此世の中で第一番にはづくがない山に木が無い水が無い早續きにお濕り無い雨降り續きに桑が無い蠶盛り人が無い農事仕付に金が無い殖へるは子供と借金ばかり遊び過ぎると金が無い此世に人と生れては無い物づくしはいけません少しは用心するがよい。

(一) づく無き人の暮し方

づく無き人は小さき暮らしをするがよい。田畑所有は人に貸し少し残して作るべし。家も仕切りて貸すがよい。夫婦二人で暮らすべし。物無き人でづくなしは狭き所を借家せよ。留守番位が適當ぞ。有る子は人に貸すがよい女は水仕の小用達口を預けて暮すべし。物無き子供は稼ぐなり。

(二) 早續きにお濕りなき時

山高きが故に尊からず木あるを以つて尊しとす。されば山には木を植え野火の用心をし木を育つれば水絶ふる事なし。若し旱續きて水なき時は田地植こみ苗を急がせ肥料をかけ虫を捕り強健に育て置く時は其内には雨降るものなり。畑旱りて乾燥する時は堆肥を二三度切換へべト〜として施すは利生なり。また土壺の中へ夕立の水を溜め置き人糞を入れて攪拌し薄肥としてかけるも利生あり。

(三) 雨降續きに桑なき時

雨降り續きに桑無き事あり。よく注意して前に桑を貯藏し置くべし。南風吹くか又は悪暖なる時は大至急桑を摘入るべし。又朝桑はよく貯藏に耐ふ油断なく摘置く事肝要なり。

(四) 蠶盛りに人なき時

蠶盛りに人なき事あり桂庵に頼みて法外の給金を取らるゝ事あり。よく豫算して何人要るかを調べ豫め前年頼みし雇人に口をかけ置き頼むべし。桂庵へ手數料を取らるは雇主も雇人も双方損の事と知れ。

(五) 遊び過ぎて金なき時

遊んで金を遣ふ人並より上の人にある。羽織ゴロと云ふ。金が無ければ耻になる。耻をか

くより早歸り内へ歸りて稼ぐべし。又行き愉快するがよい。人は切上げ第一よ。

金なき人は遊ばれぬ。金も澤山無いかわり。遊び愉快もせぬ故に金なき事も無きものぞ。

(六) 農事仕付に金なき時

農事仕付に金無き時は肥料買入岡へ田地畑瘠せて來る。また借買をする時は高い利息を取られます。人は遣り繰り第一だ。蠶上がりに金借入れて遞信省へ預け置き。肥料安いと思ふ時買入れ置くと利生あり。

第二十六 植樹園藝秘傳

(一) 一反歩十割の試作法

畑には、果樹、蔬菜等其土地に適當した物を作るは利生あるものなり。

先づ此土地には、何が一番適當するか、圖面の如く、一反歩を十に仕切りて、一種類一畝歩づゝ試し作りをなすべし。其土地の土質により適する物と、適せぬものとあり。よく適する物を探みて作るは利生なり。

昔は、畑には粟・稗等を作りたる者多し。一反歩につき粟五俵、稗なれば十俵位のものな

りき。今は多く桑を作れども、或は桑より利生多き物なしとは限らず。よつて圖の如く試作して經驗を取るべし。

第一反十割試作圖 第一圖

茄子	人參	ネギ	菜	玉菜
ウリ	牛房	イモ	大根	甘藷

第二圖

ナシ	葡萄	クワ	林檎	水蜜桃
カキ	ウメ	ナツメ	密柑	柚子

圖は一反歩を十に割りたる試作法。肥料は代金を見積りて適宜に施し收穫代金より差引くべし。

第一圖、

- 茄子何程、代金何程
- 瓜何程、代金何程
- 人參何程、代金何程
- 牛房何程、代金何程
- 以下何程、代金何程
- 梨何程、代金何程

第二圖、

- 柿何程、代金何程
- 葡萄何程、代金何程
- 桑何程、代金何程
- 以下同

右の通り一と間の收穫代金何程なるやを比較し最も利生ある物を作るべきなり。又肥料の類は、堆肥・厩肥、大豆、大豆粕、海産物、生草、石灰、磷酸等を施して作り上げ、此見積代金何程なるやを調査して試作すべし。

(二) 植木保険付に根づく法

樹を移植せんとする時は、其前年に、其木の周囲を成る可く大きく圍るく切り廻はしたる所を、ぐる／＼と一まわり掘り、薄肥にて灰を合はせたるものを其掘出したる土と切交せて、掘りたる周囲の孔へ入れ置くと白根澤山に生ずるものなり。愈々移植せんとするには其四五日前に、薄肥と灰とを交せたる物を切廻はしたる周囲へかけるべし。これ木を勢よく持たしむるの良法なり。かくして木をこぎ取るには、周囲を掘りてこぎ蒞にて根を捲くものなりかくする時は木の勢更に衰へず、瀉車にて一萬里も送る

とも保険付なり。

植へるには、植ふる所の土を、木の根の厚みに掘り、猶其下を深く掘り堆肥、厩肥、灰と薄肥と合はせたるものを土と混交し、根の厚みに至る迄これを敷込みて其上へ積込み、薄肥を土と掻き交せ、植え立つる時は必ず根づく事請合なり。此植法を用ふる時は、植へたる日より直ぐに成長するものにて百本中一本も枯れぬと云ふ妙法なり。

(三) 植木を作りて金儲ける法

上等實蒔、挿枝、取り木、代出し、根を掘りて芽を出すもの、接木合はせ、六寸切り、灰と薄肥を土に切交せて挿し半日陰にして注意すれば白根出るものなり。等種々ありますが、すべて肥料は安くて作れるが得です。肥料は、人糞へ灰を入れて腐らかしてかけると白根出易きものなり。學理上では人糞と灰の配合は肥効が無いと云ひますが、實驗に於て効能のあるのは土地の加減に依ります。根も出るし、木も太るし事實に於て効能ある事を認められるのであります。

凡て植木は根の立按配が第一であります。人糞と灰の合はせ肥より尙外の肥料を少しは用ふるもよろしい。成るべく溜に入れてよく腐らして施用するがよろしい。又植木は種類の

良き物を選んで作るが肝要です。種類悪しき物は賣口悪しく、又國家の爲めになりません故に種物を取るには、原種をよく撰むべし。種苗悪しきは我國疲弊の原因であります。我國は外國とは反對で利益の物は出来ませんから、よく上等の種苗を撰んで作り、土地より收穫を上げる事にしなければなりません。果實を取るものは女苗木が平均利生あるものなり。

(四) 大根の種蒔き法 (早年に必ず生へる法)

大根の種を蒔くには、先づ畑に畝を作り、堆肥、厩肥、干、生草等を敷込み土をかけて其上へ水肥を施し、種を蒔付ける時は如何なる早年と雖も生へ悪しきと云ふ事無し。菜種を蒔くにも亦同じ。

(五) 菜の肥料

菜の肥料に堆肥を施すときは、蕪大きく生長し莖葉軟かくなるものなり。大豆、蛹、海産肥料、人尿尿等何れも宜しけれど、若し誤つて蠶糞を施す時は苦味がつくものであるから避けなくてはなりません。

(六) 甘き南瓜を澤山成らせる法

南瓜は女衆の氣付と云つて、御婦人方に好物とされる物であります。味よき南瓜を澤山成らせる事は家庭に於て必要な用件であります。何庭の家でも南瓜を作る箇所は大抵毎年定まつて居り同じ所へ作る故に肥料に注意しなければなりません。窒素肥料ばかり施すと徒らに莖や葉ばかり蔓延して南瓜は多く成りません。味よき南瓜を多く成らせるには是非其磷酸分の肥料を施さなくてはなりません。南瓜棚作り法は二間半の棒を八尺間に立て斜にし屋根に控へをなし嚴重に造り之れに蔓を這はしめるのは、暴風及び眞夏の暑い太陽の鋭い光線を避ける事となつて養蠶上にも亦人間棲息上にもよろしいのであります。南瓜土手作り法は、堆肥、厩肥、磷酸、薄肥等を施して土手の上高き處に種を蒔き、蔓を下へ向つて生長させるのであります。かくするときには肥料充分に南瓜に吸収され且つ乾燥の爲誠に味よき上等の品を得る事が出来ます。

第二十七 修身處世の秘訣

(一) 修身訓言

▼一年の景は春にあり、一日の計は朝にあり。

一年の景色は春にある。春は四季のうち一番景のよき時です。人間殊に百姓は春早く野良に出て一年中の計を立て仕事に着手しなければなりません。又一日の事は朝が大切です。

人は朝早く起きて其日の勤めを考へなくてはなりません。

▼富貴なりとも子無き身は一人旅する心地なりけり。

如何に金銭財寶を積むとも子の無き人は一人で旅をする如く心寂しいものである。萬の藏より子は寶と云ひます。

▼寄附紀念は財産に應ずる限りはなすものぞ。

寄附や紀念になる事は自分の資産に應ずるだけしなければ此世の中の義務が濟まないわけである。寄附は人に勸あられて附くものではない。自分から進んで附かなくてはならぬ。寄附紀念は後世に永く遺る物なり。

▼命は一生名は末代。

名より命を大切に思ふ人あり。命は其人一代限りなるも名は末代に遺るもの、悪しき名をのこすな、良き名を残せ。虎は死して皮を残し人は死して名を残すと云ふ事あり。

▼夫婦和合は富貴のもと夫婦喧嘩は貧のもと。

畏くも明治天皇陛下のお勅語に夫婦相和しと云ふ事があります。夫婦和合は家内圓滿、子孫繁榮する基であります。之に反して夫婦喧嘩は家運衰頹する基となります。夫婦が二喧嘩する時は少くも五十鐘の損はあるものなり。

▼人は種を撰め、茄子は大根になりませぬ。

世界萬物皆種を撰ばぬと世の中の生存競争に負けて仕舞ひます萬物の靈長たる人間は殊更種を撰まなくてはなりません。茄子は大根にならぬ。瓜の蔓に南瓜は成らぬもの。

▼病は口より入る、食物に注意しなくてはならぬ。

口は禍の門で病は口より這入ります。殊に食物には氣をつけなくてはならぬ。命あつての物種なり。

▼借物へ氣をつけよ。又貸しするな。

人から物を借りたなら氣をつけよ人の物をいため損じてはなりません。又貸しするに間違ひのもと、直ぐに返すが常法なり

▼約束を破るな、定めた事は守るべし。

一旦人と定めた事は破りてはなりません。先方に迷惑をかけ自分は信用を落し双方損をす

る物なり。

▼人の悪事を云ふ事勿れ、人の事は我が事。

人の悪口を云つて喜ぶは小人なり。憎まれ口をきく時は自分に災難かより来る。人の事は我が事だ。

▼信心は徳のあまり。

信心心や佛を念ずるはよけれど徳の餘りにするがよい。一生懸命こりかたまつて信心ばかりはいけません。屋敷を拂ひ田を賣り給へとなつてはいけません。

▼少年は餘り手詰めはいけません。

子供をあまり手詰めにすることよくありません。親父の金を盗み出し却つて放蕩者となる事あり。子の教育は寛嚴よろしく願ひます。

▼欲しき物は少し買へ。

心に欲しきと思ふ物あらば、少し買ひ多く買ふ事無用なり。心の慾を抑ゆべし

▼色事、かさ、ひせん、膿持の者へ手を出すな。

色事は身を謹み心を慎みよく氣をつけてするものよ。微毒、痺癬等凡て膿持の者へ手を出

す事無用自分の身体は毒が廻はりて骨がらみ、鼻欠けとなるのみならず子孫迄も毒を遺傳するものなれば氣に氣をつけて賣春婦などは検査済の者を買ふべし。安物買ふと錢を失ふのみならず命を失ふ御注意々々。

(二) 家庭教育子供の仕付法

朝は早く起出で清水にて顔を洗ひ、天神宮と手を合はせ、朝飯すまして學校へ行くべし。書物類は床の間の隅へきめて置け。風呂敷類は掛竿又は物掛の端へきめて置け。履物はちやんと揃へて脱ぎ置くべし。傘は板壁の釘へ掛けるべし。此習慣をつけさす事第一也。又日頃年寄りは大切にし、言葉遣ひを和らげる様教育しなくてはならぬ。學問は高山へ登るが如し。油断をすれば人に遅れる。今日學ばずとも明日ありと云ふ事勿れ、月日は矢の如し、一度去りては又歸らず。幼年に學問勉強せざれば一生愚かの人となるぞよと常々よく云ひ聞かせるべし。

(三) 百姓の朝仕事

百姓は朝早く起き清水にて口をすすぎ天照皇と手を合はせ、家庭内の掃除をすべし。田水も見るべし。牛馬の草も蒔り、畜類に餌を與へ、植木に水を遣り小用を達すが朝飯前の

仕事としてなすべし。一日の事は朝にある故朝は其心してなすべし。朝は空氣も清らかにして運動をなせば朝飯も甘く身体健康となるものなり。

(四) 日本男兒の本分

日の丸の御旗輝く日本の國に凡そ男兒と生れたからは兵士となるが名譽なり。徴兵除けの神參り、お百度参りや午社詣りを一生懸命にするのは大なる間違ひぞ。一朝國家に事ある時は命は投出し君の爲、國の爲にと盡されよ。鐵砲玉の的となり死ねば猶更名が残る。其勳功は千載の石に刻みて忠魂碑、數多の人に拜まれる。末の世かけて名譽なり。

(五) 商業利生の法

普通商人は他の商家へ五年なり十年なりの番頭務めが満期となりて獨立の商業を営みます。然らざる商家の子弟なりとも家事の都合を繰合せ少なくとも一ヶ年位は他の信用ある商店へ番頭をして其の營業振りを見習はなくてはなりません。見習もせずして商賣をすれば思はぬ損害を生じて一廉の商人として成功する事は覺束ないもの也。艱難は人を玉にすの如く人の前座はつとめなくてはなりません。凡て商人の仕入れは自ら製造元へ出張して實物をよく見た上優良の品を撰んで面談の上現

金にて仕入る時は上等の品を格安に仕入れる事が出来ます。商人はよく見本買として書面見本等にて買買をいたしますが。直談にて買買する様にはゆきません。又商店にてやむを得ず見本を用ふる時は商品より上等の品を撰んではなりません。

商店繁昌の秘訣は薄利多賣主義即ち格安に多く賣り顧客を多く取つて利益を得るにあり。世の商人は安物を上等品なりと云つて高價に賣つて往々顧客を欺く如き事があります。大々的なる廣告をして廣告費を多く費やすは眞の營業法ではありません。優良なる實物の廣告が一番利生があります。中元とか歳暮とか名をつけて大賣出しをしますが之は棚曝し物を拂はんが爲の商略であります。格安と思つても根が棚曝物だから決して安くはありません。

『危き處に金あり』と云ひますが實業は『石橋を金の杖で渡る』と云ふ如く『君子危きに近よらず』の例へ眞面目に堅實するのが失敗がなく安全の道であります。商店にて大賣出しを近くするのは繁昌しません。

故に農家等に於ても右述べた事柄を辨えてよく注意し一家の經濟を思はなくてはなりません。

ん。格安の品物を選んで買ふは勿論でありますが只々安いに惚れて『安物買の錢失ひ』をせぬ様に注意すべし。

(六) 月給取の經濟

凡て月給は何程取つても足りぬもの、取れば取る程生活程度が贅澤になるものぞ。月給取つて暮らす方は日々の經濟思ふべし。月々下がる月給で月々勘定支拂ふべし。若しや不足を告げたとして、此土地在地で金が無い。一般有志の餞別を懇請するは見つともない。一人の經濟にするがよい。

(七) 境界論と畔掘

凡そ土地は往昔より境界の無い所はありません。境界論の原因は境を掘るが始めなり。論じて人に笑はれる。多くの人が見りや分かる。人を頼んで境しろ。論すりや互に意地が立ち、意地の喧嘩となるものよ。

曲り畦畔は眞直にせぬと間違起るものとなる。互に利生交換し一直線に直すべし。畔藪こぎて石を伏せ平らにすれば粟も蒔けラツキヨウ作るもよろし。

畦畔を深く掘るは貪の基なり。畔堀る人は數多の人に憎まれて境は取れず名を汚すなり。

(八) 電気泥棒

文明開化の世となりて、山の中なる村家まで、電燈ついて便利なり。然るに電氣を盗む人ちよい／＼あるは不都合千萬なり。盗めば得と思ひの外。これが流行れば一般に電燈は暗くなつて来て共に難義をするものぞ。それ故に電氣泥棒皆憎くむ、電氣會社で注意せよ夫れ養蠶は日本發達の基なり。故に養蠶時期には電氣を強く頼みます。暗くて蠶は飼はれない互に電氣盗ますによく氣をつけて下さいな。電氣の足にランプをつける様では誠に困る次第なり。

(九) 火の用心

凡そ人は第一に火をまつめるが肝要ぢや。若し過てば一代の疵。人の思が恐ろしい。自家は焼けたり間違へば廣く焼く事多し。其損害は何千萬、積り限りの無き物ぞ。仕事するより火をまつめ、注意する人仕事する。皆氣をつけて暮すべし。宅地内狭き所へ物置小屋を建つるは火の用心悪るし。又松葉類を澤山に積むは間違の基、少し離して積むがよい。小屋を作るには餘程家に離れた處へ建て水の便を計る可し。壁土を厚くつけるは火の用心となる。厩子は棟の數程有る可き物なり。又居間の上へは成る可

く物殻を上げぬ様に注意すべし。家の周圍に薪、ボヤ、萱、藁等の燃料を多く積むは不用心なり。消火器類は輕便にして完全なる物を備へ、泉水へは水の澤山に来る様用水路へ水引く法をなし置くべし。平生は少なくともマサカの時には充分に水來る様なし置く事肝要なり。

(十) 木賊

官地續きの處常に木賊多し。總て木賊は貧故の盗みもあれど、財産ありても盗まぬ者は損と思ひて皆盗むに至る。一夜五圓と云ふ事あれども斯かる盗人何時も榮へず、常に貧乏する者なり。泥棒の給金も日割にすれば平均三十五錢なりとか、餘り儲かる者にあらず。人と生れたらば勞働をして一家の生計を立つべし。總て賊心の人は貧なるものなり。

(十一) 夜逃

借金は恐ろしいものである。債權者の事を鬼と云ふが此債鬼のために攻立てられて財産が減つて利息が殖える。斯ふなれば居ても立つてもたまらなくなつて三十六計逃ぐるに如かずと奥の手を出して有る物を内證で安賣りして其金を懐中し支拂をせず人情を捨てて夜逃げをする。自分は人を倒してやれよかつたと思へども行先必ず利生は無きもの人の思ひ

で花咲かす成功しないものであります。だから夜逃げするより有る丈の錢で拂へる丈の借金を拂つて事を小さくまつめて暮らすべし。人の運氣は分らない又花咲く春も来るものを、心に置いて返すべし。

(十二) 金たまる法の金言

朝起きさせよ。宵詰するな。

人の來るのは福のもとなり。

長居をするな。

山事するな。

無き者に金を貸すな、少し與へよ。

金を貸さずに土地を買へ。

愛想づかしは金かもと。

勘定は早くせよ。

用心第一火をまつめ。

焚火の灰は近く取れ(灰は作物の根を肥やす大妙薬)

掃溜の塵を捨てるな。

塵も積りて堆積肥料となる。

麻を少しは作れ。

南瓜を屋根に上げるな。

十文惜しみの百知らず。

病は押さずに醫者にかゝれ。

酒と煙草は養生に害有り。少しあがれよ謹めよ。

色男財産をへらす。

人の女房へ手を出すな一夜千圓。

にこくと笑ふ門には福來る。

家内喧嘩は貧の基なり。

普請事豫算澤山に置きよ、途中で止めれば損になる。

少しの豫算でやるなれば小さい事をするがよい。

ランプ類、瀬戸物類を持つ時は氣に氣をつけよ。落せば物を損するなり。

財産よりも子は寶。

夫婦喧嘩は無いがもと。

子の無き者は人を代へろ。

繼親にかゝるな。

面倒な仲裁は成るべくするな。

無理が通れば道理が引込む。人を憎んで道理をおくよた物を買ふな。

時は金なり。

手は寶。

堆積つんで田畑を作れ。

(十三) 注意事項五箇條

第一條 傳染病へ近寄る可からず、病氣に感染するといけません。たとへ病氣を受けたて患者の病氣は軽くなりません。醫師や看護婦其道の人に治療を任すべし。

第二條 満水ばたへ行く可からず。水を防ぐに注意しなさい。水死する人あります。水は人間の手で防ぐ事は容易な事では有りません。水は工夫で防ぐものなり。

第三條 火事場危き所へ飛込む可からず。火事場へ行くのはよけれども氣に氣をつけて行くがよい。危き所へ入る可からず。人の身体は大切よ、やけどする人火事の爲めにはな

りません。一戸千圓二千圓積りかぎりの無きものよ。火事は消防で防ぐなり。名譽あげたり金筋貫つたり名義を上げて國の爲めにもなるものぞ。

第四條 大持仕事に注意せよ。大持仕事に行く時は、氣に氣をつけて行くがよい。大持は思はぬ所へ来るものよ。怪我して爲になりませぬ。金銭かけるもよけれども、もこの身体にならぬもの、皆氣をつけて済ますべし。

第五條 神信心にも注意せよ。神信心はよけれども、徳のあまりにするがよい。深く信心する人は手間財産がへるものよ。信心永くするときは必ず悪しきものなるぞ行者、法印する人は、此世に繼續出来ませぬ。皆考へて暮らすべし。

(十四) よき思ひ、悪しき思ひ

よき思ひ

△井戸堀つて清水出る事

△買物値上となりたる事

悪しき思ひ

▲火事に逢つた思ひ

▲水に流れた思ひ

- △良き人に出逢ひたる事
- △金儲けの事をしたる事
- △普請事を仕上げたる事
- △思ふ妻子を求めたる事
- △一人子戦地より歸る事
- △千兩富籤當りたる事
- △男の子の生れたる事

- ▲貸金取れぬ思ひ
- ▲連帯して辨金した思ひ
- ▲間違で人に怪我さす思ひ
- ▲一人子戦地へやる思ひ
- ▲大怪我をなしたる思ひ
- ▲思ふ人來らぬ思ひ
- ▲普請仕上がらぬ思ひ

(十五) 農家冬期間の副業

農民の冬分は農作道具と同じもの、冬は休みて居るがよい。春に至りて働くべし。併し炬燵にばかり居る時は衛生上にもよくありません。暖かな日には日なたに出で、蠶簇を折るがよい。寒けりや炬燵へあたるべし。夫婦機嫌をさるもよし。日々の仕事は山となる。又蠶簇縁付け等をするもよし。あきたらお茶を飲むがよい。又精出してやるがよし。油断はするな此浮世出来た仕事は山となる。

(十六) 飼物道樂の事

飼物道樂に色々あり。鶏飼ふよし、魚飼ふよし、犬を飼ふよし、猫飼ふよし、馬飼ひ、牛飼、豚飼其他魚を飼ふよし、小鳥を飼ふよし、車鼠を飼ふのもよろしけれど其うち何が一番利生かと云へば馬が第一、牛が第二、豚が第三となるものなり。

(十七) 植木道樂の事

植木に種々あり、四季の青木は椿に柚子は美事なり。梅の鉢植、梨の鉢植などもよし。大なる庭木は考へよ又大なる山を築き大なる植木をなすは少し考へ物なり、花咲く鉢木、高山植物など澤山有りますが誠によろしいものであります。嗜好に任せて作るべし。朝は早く起きて朝飯前に手當てをなすべきものなり。

(十八) 男女の行儀仕付法

(イ) 男子の行儀

農家の子弟は八ヶ月間の農の働きに出すがよい。自家の仕事では分らぬもの。他人の仕事を見取りしろ、よき方針を取るがよい。人の勤めは辛いもの。内へ歸りて働くがよい。樂な主人とされます。また他へ出る者とても皆同じであります。

(ロ) 女子の行儀

例へ家内都合悪しくも一ケ年は他の家へ水仕奉公又は農業の仕事に出すがよい。一家の主婦となる者でも一度は他家へ出し他人の飯を食はしむるべし。人目と云ふものは一身の爲めになるものである。之れ我子のししめの出来る法であります。

(十九) 同情心

人は利生の事は心に置く、利生の事を人に廣めるがよし。共に利益で國が富む。人の悲みを見て身を樂しむ。人の事は我が事。悲しき事は共に心配するがよい。夫に別れた人は一戸同等の人。女心で經濟が悪るい。共に助けて經濟に送れ。

(二十) 農村に於て注意すべき事項

川筋へ土を流すは貧の本なり。刑法第四百十三條にあてゝ一ケ年以上二ケ年以下の禁錮に處せられ二圓以上二十圓以下の罰金に處せらるゝものなり。田地へ悪土を入れる時は悪田となり、秋作の取揚げを得ず。田舎道へ土を出すは人民の不便なり、受持警察へ届出でゝ小石充分に入れて道を健全にせよ。

田舎の者、野に出でゝ耕作する者多し、大火を焚くは間違のもとなり。耕作を休み見込の

違ふことあり。大火焚くなら前の夜に區内巡達せよ。受持警察へ届出でするがよい。

鶏を飼ふは冬分はよけれども、夏は巢を作り鶏を入れるべし。作物を害すれば間違ひのもとなり、卵より作物を害すれば十倍の損なり。

水鳥を作場で飼ふな。田に入るもの多し。作物を害して利生無し。我土地にては澤山飼つて見ましたが平均損となりまして皆やめました。

(二十一) 雇人根性を廢せ

雇人は凡べて多忙しき家にて頼むものなれば、仕事に行かば精出して仕事の都合を計るべし。働く人を頼むなり。運動は身体の爲めよ働く人は金をためる。樂みて爲めになりはせぬ。自分の名義を落すなり。

(二十二) 仕立物の注意

針仕事は、心落ちつけてなさるべし。仕立て、裁ちきり物は、二度三度尺を指して見て後に切るべし。若し過まれば丁度のもので出来ません。又針を粗末にする人あり。代金は安けれども針をくすぎて惱む人があります。針のまつめをせよ。

(二十三) 衛生と經濟一舉兩得の法

沸湯は汚物を焚き、互に入湯するがよろし。疝れを抜き身体を清潔にし、衣類の汚垢を防ぎ、沸湯は堆積の肥場に注ぐ時は大効あり。沸湯は温度高きうちに堆肥に注ぐ方利生なり。凡べて紫の花の咲く草木は熱となるものなり。之を湯に入れて入浴する時は冷えの諸病を治する効能あるものなり。故に沸湯は衛生と経済とを兼備せる農家利生法なり。

第二十八 農村改良策

(一) 河川道路の改良 (亀原アゲド)

道路は直線にして見通しよく高低を定め蒲鉾に作り、車馬の通行に便し荷物充分に運搬するは富の基なり。橋梁を架するには石材がよろし。石橋は腐ると云ふ事なし。小堰は大なる土管を埋設するがよし。土を覆へば耕地となり利益なり。諸川、水揚口は亀原アゲドにせよ。亀原式アゲドは石を積立て兩側を自然に高く中窪に板屋勾配位の程度に積みセメントにて繼ぐ時は入費少なくて健全の物出来上がるなり。又川端の高立木は川に應じて高きを伐り下げ成果物の類柿、梅、澁、梨等を植へる時は利生あり。花咲き果實熟したる時はなかくに美觀を呈するものなり。

区内用水は、區の上より中央を引き八方に分ちて引用すれば利便多く火の用心にもよろしきものなり。

(二) 住所庭園の改良

生牆は低くするがよし。其間へ柿、梅等を植込めば利生あり。人の地へ露を落さず又秋庭の邪魔にならぬ様にすべし。宅地内の青木を伐り拂ひ、柿、梨、柿澁等を植ふれば利生多し。屋敷内肥場は雪隠の方面に作り、周圍は柿、梨、葡萄を植れば太陽の光線を受けぬ故、肥場の窒素を逃がす事少なし。又養蠶日除けの爲め葡萄を植るもよろし。庭木は大なるものを作れば貧のもとなり。大なる山を築くは悪るし。屋敷は用心堅固にすれば其家榮へる基なり。又共同物學校等は大なる物を建つるは榮へる基なり。

(三) 田園森林の改良

山林は治水に關係なき限り成る可く開墾して畑となせば其土地發展するものなり。原野は河川の水を引き灌漑すれば牧草繁茂して地味大いに肥沃となるものなり。

田畑耕作地に接近せる森林の立木は枝を拂ひ又は幹を伐り下げして木蔭を抜くべし。耕作地に露を落すは作物不作の基なり。
又人家に接したる道路にして遺幅廣き所は人家の出入口及通行に妨害なき所を撰み共同して植樹票を立て此所に柿、梨、柿澁、櫻桃等の果樹苗木を植栽する時は村内通路に美觀を添へ衛生によろしく人家の體裁をよろしくし利生ある事なり。

(四) 神社墓地の整頓

神社無格社は總て一ヶ所に遷し合祀し盛大に祭式を舉行すべし。合祀する所の神苑の森は永遠に保存すべきものなるも遷したる跡の神なき森は樹を伐拂ひ賣却して其代金は逓信省へ貯金すれば利子を生じ甚だ利生なり。また木を伐拂ひたる地所は開墾して畑に貸せることは年々小作料を取上げらるべし。かくすれば隣地の木蔭とならず又露をも落さず四隣皆利生あり。加之預金の利息と土地の小作料金を以て御神酒を購ひて神に供へおさがりは氏子一同にて頂戴すると大層有難きものなり。
次に、墓地諸方に散在するは人家發展の妨となるものなれば人家を少し隔りたる所に一定し此所へ遷す時は後地は畑となり作得を上げ附近宅地となりて益々家屋建設され發展するものなり。

ものなり。

(五) 共同水道及共同貯水池

田畑冷え間は水道を抜くがよし。大冷え間は共同にて大水道を貫く時は富の本なり。冷え間は乾間に比し平均半額位の收穫なれども上納は別に安くはありません。山つきの田地は水持ちが第一ですから下土を練り込みすべし。肥土は厚きがよろし。二番水口を植へると十年平均必ず利生あるものなり。また三十日間止め水をする時は米の增收疑ひ無し。上田と異らず。

又水なき時は共同にて堤を作り水を貯へよ。冬季農閑の時間で二年三年と繼續して段々大なるものに作るべし。そして工事に従事したる連名は臺帳に記して後世に其名を傳ふべし

第二十九 農家天文學

(一) 自分試し天氣豫報

昔より云ひ傳へある天氣試し法に蚤騒ぐは雨降るとかあかぎれ痛きは雨となるとか揮瀝りを持つは雨なりとか種々の事を云へども自分の天氣試しはそれより上品の試し法なり依て

左に紹介せん。

天曇れども空高く見ふれば晴天と知れ。
天曇れども星高きは晴天となる。

西風吹けば雨晴る。

霧西よりのぼると晴天となる。

太陽赤色を呈するは天氣。

曇れども西川の音するは晴天となるものなり。

月赤ければ早と知るべし。

○

朝透し日するは雨降と知れ。

南風多く吹くは雨降と知れ。

天氣なれども悪るあつきは雨なり。

霧下に沈めば雨降となる。

星近ければ雨降。

天氣なれども太陽薄白ければ雨。

霧南より來るは雨降。

南川音すれば雨降りなり。

但し夕立はこの限りにあらず。

(二) 太陽の色

太陽の色は左の七種にわかるものなり。

紫、紺、藍、緑、黄、樺、赤。

例へば虹の色彩の如きものであります。

日の透さぬ時に太陽の色を顯はすものは氷なり。氷を疵つけ見る時は虹の如き七色を呈するものなり。

作物實を結ぶは太陽光線のため、また寒さを凌ぐのも太陽の爲め、水に入る仕事をなすも太陽光線のため、凡て世界の千羅萬象の發達するは太陽光線のお蔭なり。實に太陽程有難き物は外になし。

(三) 慧星試し

慧星出でる時は何か世界に事變起るものと知れ。又近きうちに相場に變動の起るものなり。されは借金ある人は此際整理するが得策です。相場上がるとよけれども下がる事多ければ、財産有る家にて借金ある時は上等の土地景氣よきうちに賣拂ひ、借金拂ひをえて残金は逓信省へ貯金をなすべし。十年たふぬうちに必ず安き時巡り来るものなれば其時田地買ふ時は元の財産に復活する事が出来ます。

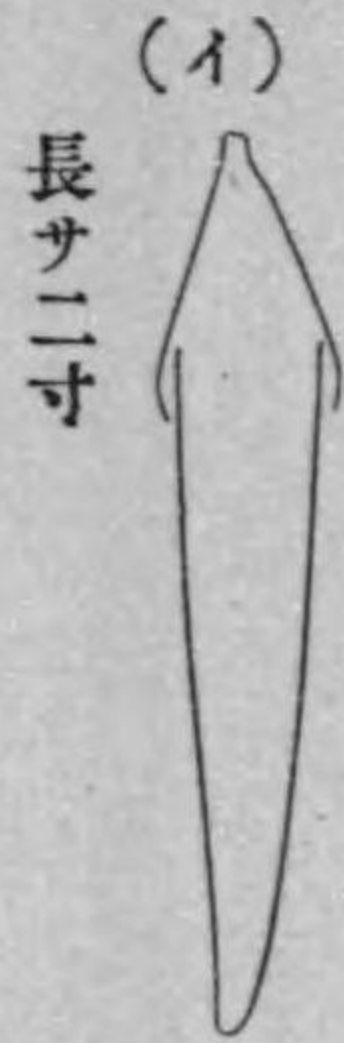
(四) 空氣窒素の事

農民は天地間に空氣窒素の有る事を知れ。有機窒素、空氣窒素は田畑第一の肥料です。農業地及び肥料工場のうちより多く天候の爲めに蒸發したるもの多し。島の肥料を施す時は土を厚くかけるがよし。薄くかければ蒸發するもの多し。又虫になるものもあり。又堆肥は桑畑の作間を掘りて入れるがよし。土を厚くかければ大効あり。空氣は高山の絶頂と海上の空氣と同じものなり。すべて立木は海島と山頂と同じものなり。草木も同じものなり。空氣窒素は同じものなるを知るべし。陸地と海上とは空氣窒素に違のあるものなり。海風は空氣純粹なれば南風強く吹きて地雨降る時には海上の空氣陸地に來り居るものなれば地雨には肥料分少なきものなり。

第三十 諸良法の傳授

(一) 粗摺臼軽くむける法

粗がよく出てよくむけて軽く米のいたまぬ法あり。心棒の頭に(イ)圖の如き二寸の釘を作り(ロ)圖の如き刃金の板を以てつるし木へ此板金を掘込みて使用すべし。



代金安くして臼輕き法なり。目突き臼は成るべく目を深く立てるがよい。淺く立つと直ぐ

へるもの。臼の摺齒は三寸位が適度です。外の分は凹くするがよろしい。之れ米の打れぬ法なり。何臼に限らず凡べて摺齒は三寸位がよろしい。奥でむけると米の痛むものです。臼重さか此証です。

(二) 裁縫用鉄を磨ぐ法

鉄を磨ぐにはよく錆を落し、麻糸で合はせたる所を堅くしめ、刃先を起して研ぐものなり

鉄は尖をよく研ぐと切れるものなり。ウラ尖切れぬ時は解物するに不便なり。鉄と小僧は使ひ様といへごとく研かねば切り口奇麗に行かぬものなり。又鉄は子供の玩弄物にすべからず。危険の事あり。

(三) 理髪用髪剃を研ぐ法

髪剃を研ぐには裏をすき、峯と刃先とよく密着する様にして砥を平らかに直し研ぐと新らしき髪剃の如くによく切れるものなり。

(四) 庖刀を研ぐ法

庖刀を研ぐには石砥にて錆を落とし、刃先を平らかにして刃板に合はせて研ぐがよろしい。始めは石砥にて研ぎ仕上げは上野砥か又は虎砥にて研ぐ時は息は切れずによく庖刀が切れるものなり。

(五) 專賣物購入秘法

專賣物には善き物もあり又悪しきものもあります。高價の代金を支拂つて折角買入れた物も薩張實用に適しない物があります。故に人の一ヶ年試用したる後にて世の定評を聞き人の實地に試用したる所を實見し然る後に保險付の品物を買入れ使用すべし。かくする時は

過ち無し。

第三十一 伊勢鑑

(一) 伊勢參宮利生有る年の事

子の年の人は丑寅の年參宮すれば富貴する又寅卯の年參宮すれば福來る申酉の年參宮すれば命長し。

寅卯の年の人は子丑の年參宮すれば富貴する又寅卯の年參宮すれば大によし申酉の年參宮すれば大福を得る。

申酉の年の人は子の年參宮すれば大によし卯辰の年參れば大吉也午未の年酉申の年參るもよし。

丑辰未戌の年の人は子卯巳午酉亥の年に參宮すれば大に福を得るなり。

巳午亥の年の人は子申亥の年參宮すれば大によし。

(二) 伊勢參宮せざる年の事

十歳 十三歳 二十歳 二十六歳 三十歳 卅八歳 四十二歳 四十七歳 四十九歳

五十一歳 五十三歳 五十六歳 五十八歳 五十九歳 六十歳 六十四歳 七十歳
右の年何れも参宮するに忌むべし。

(三) 伊勢参宮忌服の事

父母十三月 養父母五月 嫡子九十日 高祖父母三十日 養子三十日 繼父母三十日
兄弟姉妹九十日 舅姑九十日 夫十三月 妻九十日 叔父叔母二十日 異父兄弟二十日
嫡孫三十日 末孫七日 従弟甥姪七日 主君十三月 師匠五月
但し藝によりては無きもあり。

第三十二 男女相性

△男木女木 ○木旺木とて木と木と並ぶれば林となる。此理を以て吉といへども木と木相摺れて火を生じ相焼なれば常に口舌事絶えず又病の恐あり子は生れても短命なり。さもなくば不孝なるべし。氏神三寶荒神を深く信心すればよし。

○男木女火 ○木生火とて順の相性にてよし一旦産神の咎によりて口舌事あれども後々は大幅來り命長く牛馬に縁ありて富貴なり子は七人あるべし。

○男木女土 ○木克土と克すといへども元土は木を養ふ母の子を生むに辛苦するが如しされば此相克はよし男土女木は逆の相克にして悪し是は順にて夫婦仲よく財寶ありて万よし但常に思事ありて子に縁薄し。

○男木女金 ○それも金克木と下より克すれども吉添ふ故に金は木に添て用をなす鎗長刀または鋤鍬なども木と云ふ柄が添ふにより用を達す依て克の中に相生といふ。但し女木男金は凶し子は三人あるべし信心ふかく慈悲善根してよし。

○男木女水 ○水生木なれども下より相生すれば逆の相生とて半吉なり信心ふかく家業怠らず末程繁昌し田畑牛馬に縁あるべし子は三人あり。

△男火女木 ○是も逆の相生にて半吉なり女さし出る心あればあしく子は三人ありて難なし始めは思事あれども末程繁昌し名も高く人に知らるべし女さしいで又は夫婦不信心なれば仕合あしかるべし。

●男火女火 ○火旺火とて大いに悪るし火に火を重ねて炎となる胸を焦す理にて比和の内にてもよろしからず、子は有れども不孝なり夫婦常に争ひ絶へずよく身をつゝしみて信心すべし。

○男火女土○順の相性にて大によし夫婦中和合し命永く財寶集り官人は位高く富貴すべし子はあまたあるうち二人の力を得べし。

△男火女金○火克金と克すれども順の克にて半吉也金は火に逢ふて光を増す理にて夫のかげにて女も世に譽れをあぐべしされども常に口舌絶へず子は二人ありて智慧も賢し不信心なれば老て貧なり。

●男火女水○下より逆に克して大にわろし夫婦常にいさかひたねず女夫を敬はず妬み心深し衣食も乏しく貧にして子は三人あれども力になり難し、よくく身をつゝしみ信心せば末にては安かるべし。

●男土女木○是も下より逆に克す不和の克とて大に凶し、やゝもすれば女より争ひを仕出し財寶乏しく貧なり子あまたあれども育ちがたし夫婦心を正直にもち信心せば末にては安かるべし。

△男土女火○逆の相性にて半吉なり女の力にて世渡すれども思事絶へず財寶には縁あれども子の縁薄し慈悲善根し神佛をしんくすれば末程榮え身安樂なるべし。

△男土女土○土旺土と比和すれども半吉なり始はよく後わろしとかく病事絶ず子は三人あ

れども力になりがたしよくく養生をつゝしみ神佛を祈り慈悲施をすれば仕合なるべし

○男土女金○順の相生にて大によし財寶多く下人數多ありて田畠牛馬に縁あり子五人ありてみめかたちよく藝能ありて孝行なるべし信心深く人に情をかけなば末程富貴なり。

△男土女水○天刑とて順の克なれば半吉なり女の心あらく男を軽んずる心あらは始よくとも次第に貧になるべし子は二人あるべし萬をつゝしみ信心深ければ後々は仕合直るべし

△男金女木○之も天刑とて順の克なれば半吉なり初は貧なれども末はよかるべし子は二三人ありその内一人は病身なるべし不信心なれば次第に貧しかるべし一代の内よく天満宮を信心してよし。

●男金女火○下より逆に克して大にわろし夫婦の中睦しからず財寶たまりても又乏しくなり男は病身となるべし子あれども愚にて力となりがたし心を正直にもちて信心せば仕合なれば末にはよし。

△男金女土○逆の相生にて半よしなり女の威勢男に勝りやゝもすれば夫を輕しめる故財寶保ち難し此心を謹めはよき子をまうけ末にては田畠下人牛馬に縁ありて榮ゆべし不信心なればわろし。

●男金女金○金旺金と比和しながらわろし金と金と打合す理にて争事絶へず始はよくとも後わろく家内に病事絶す貧になるべしよく心をあらため神佛を祈らはよし子は三人あるべし。

○男金女水○金生水にて大によし財寶多く田畑牛馬に縁ありて願望悉く叶ひ子は五人ありて命長し慈悲の心深く人をあはれみ信心深ければよく富貴にて子孫ながく榮ゆべし
○男木女水○是も順の相性にて大によし金銀田畑牛馬に縁ありて下人多く子は三人か五人あるべし命長くして何事も心のまよなり但し不信心にて富に誇る心あれば衰ふべし慎みてよし。

△男水女火相克ながら順の克なれば半吉なり女の心あらく常に夫と不和なり不信心なれば末ほど貧になりて命短しよく身をつゝしみ信心せば仕合なるべし、子は一人か三人あり。

●男水女土○逆の克にて大にわろし病事しげく財寶なく口舌多し子は四人あるべし夫婦じやけんなる心をつゝしみ氏神を祈らば末には仕合直り後々は世をやすく暮すべし。

○男水女金○逆の相性ながらよし財寶多く眷屬に縁あり子も多く末程繁昌すべし信心強く

施しをせばいよくよかるべし。

●男水女水○比和すといへども水に水をそへ洪水の世の妨をなす理にて大にわろしなすほどの事心のまよにならずして苦勞多く貧しかるべし子は五人あれども親にそむき不孝なりよく信心して福を祈るべし。

第三十三 男女相性名盡

男相性名盡し

(一) 木性

武仁又彌宇兵万半平文茂圭久九五勘源菊吉彦嘉唯李伴麻百辨芳梅房
邦權門

(二) 火性

覺義角久九吉彦加虎幾定五松元助計廣岩只寅佐磯金象實三龜森文牛
菊勘源

(二二) 土性
長二理仁治傳忠仲藤太重貞龍利德丑恒猪林竹多千角房順友常壹米倉

(四) 金性

一與伊喜嘉宇和安乙虎好吉石幸猶爲由熊友秋米品万澤道賴文由要右爲惠吉

(五) 水性

善清甚庄三小作次市松惣正佐宗勝西新七千政常淺正眞辰巳初岩玄良五北金

女相性名盡し

(一) 木性

麻房國百梅品包武茅件万茂澤良蘭貞栗留頼道類達勘米林大

(二) 火性

倉吉岩國幾曲久菊艶塩吟猶益延梶龜源玉花鶴虎越今高極中

(三) 土性

重竹蝶當茅傳長六藤末町隆鳴德楠臺金秋辰

(四) 金性

由幸恒安虎市縫鳴豐民門富茅糸文演墨末坂峯好福波瀧琴初

(五) 水性

千種常松勝善石政光市十作三小次歌崎京谷元宮才村霜秋岩

第二十四 諸病家庭療法

(一) 酒の二日酔の薬

酒の宿酔には葛の花又は茄子の花を蔭干にし粉にして白湯にて用ひてよし。

(二) 蛇に咬まれたる時の薬

露草の花も葉も一ツに揉みて咬まれたる處へすり付けてよし。又煙草のやにをとりてつけるも痛みを止めて治するなり。

(三) 鼠に咬まれたる時の薬
猫の糞を糊にてやわらげつけてよし。又猫の黒焼を酒にて用ふるもよし。大豆の葉を揉みてつけるもよし。

(四) 痔の薬
蜆の煎じ汁にて洗ひてよし。又蛸のゆで汁にて洗ふもよし。又土龍の黒焼を粉にしてつけてよし。

(五) 天癩病の薬
萬年青の根を白水にひたし後干して粉にし丸薬となして毎日三度づゝ七日の間用ふべし。

(六) 液臭の薬
明礬を粉にして毎朝塗りつけてよし。

(七) 魚の目を治する薬
鹽漬の茄子を切りすり付けてよし。

(八) 小便通せぬによき薬
菅を煎じ腰湯してよし。又田螺の肉をすり臍にすりつけても小便よく通ずるなり。

(九) 大便通せぬによき薬
白桃の花を陰干にし粉にして白砂糖水にてねり丸薬にして服すればよし。又赤飴を煉り長

く丸くして肛門にさしてもよし。

(十) 痲病の薬
大麥三台を炊つて甘草二匁を加へ煎じ用ひてよし。又早苗の陰干を煎じのむもよし。

(十一) 漆かぶれの薬
鯉を食するもよし。又松魚節を煎じて服するもよし。

(十二) 霜焼の薬
牡蛎殻を白焼にして粉にして髪油にてとき塗るべし。

(十三) 痰の薬
胡桃をすりつぶし蜜にてねり毎日一匁づゝ白湯にて用ふべし。

(十四) 霍亂の薬
胡椒を二三粒づゝ朝毎に用ふれば其日霍亂する事なし。

(十五) 耳だれの薬
大根のしぼり汁を紙捻りの先へ付け耳の穴の中へ入れてよし。又蟬の脱殻を油にてひたし其油を耳へ入るゝもよろし。

(十六) 耳の穴へ虫の入りたる時の薬
其虫の入りたる耳へ胡麻の油を入るべし。豆粒等の入りたる時もまた同じ。

(十七) 疝氣の薬
南天の葉をうすく煎じて温ため度々洗ひてよし。

(十八) 虫齒の薬

焼酎にて口をすすぎ又含みてよし。

(十九) 頭痛の薬

海白菜を煎じ洗ひてよし。

(二十) 打折の薬

麻の葉を莖ともよく干して黒焼にし酒にて酔ふ程用ひてよし。

「天は自ら助くるものを助く」と云つて困る人を助けて置けば「天網恢々疎にして漏らさず」永い年月の間に亦助を得るものなり。弱き者を助けよ。難儀に遇ふた人を助けよ。又子供等には悪しき事を教ふべからず。善き事を教ふるは勿論なり。世の中には悪心悪業の人あり、欺むかるべからず。氣に氣をつけて暮すべし。無理なる事を云つて金銭を奪ひ取り又難題の事を持ち掛け世の人に豺、狼の如く思はれる者もあります。

右の如き詐欺師は終には刑罰を被むるもの也。吾人はよく注意して世を渡るべし。

第卅五 農村の俗諺

◎金を溜めたり仕事をしたり、土地を肥やして名をあげろ。

(堆積の唄)

◎金の成る木も数あるけれど、土地を肥やせば金なる。

(河川肥料の唄)

◎農をする人蠶も飼ひな、飼ふた蠶か繭の山。

(養蠶の唄)

◎惚れて見るせか洗濯着物、着ると經濟程がよい。

(沸かし湯の唄)

ツケつまりよい娘が私の妻何と間がいよでしよう。

(遊び過の唄)

◎意見されても有るうちや使ふ、金が無くなりや先がいや。

(選舉の唄)

◎上の役人財産いらぬ、廣い此世へ名をのこせ。

(同上)

◎役所勤は何よりつらい、金や慾上ちや出来はせぬ。

(衛生の唄)

◎命なればお金はいらぬ、病氣見舞に氣をつけろ。

(火事場満水の唄)

◎廣い浮世に一つのからだ、水出火事場に氣をつけろ。

(飼物道樂の唄)

◎小鳥飼ふより鶏お飼ひ、卵二人の滋養分。

(子供七人の唄)

◎私と二人で子供を殖やし、稼がせるのも國の爲。

(子供教育の唄)

◎夜學させたり夜業もさせて、人の勤めで仕上げたり。

(同上)

◎何所の子供も喧嘩はするが、親の頭にあるものよ。

(菜大根唄)

◎な大根不作でも又なや大根を、取らにや百姓のかがない。

(味よき米を作る唄)

◎辛抱して又百姓さんせ、味のよい米とるがよい。

(火の用心の唄)

◎大きな家普請一夜の花よ、土地は煙になりはせぬ。

(長林式實驗の唄)

◎長い間の考へ事が、長野縣にて名が残る。

「長林生作る」

大正五年一月二十日印刷
大正五年一月廿五日發行

(定價金七拾五錢)

長野縣諏訪郡原村五百四番地

長林三之助

編輯兼發行人

長野縣松本市本町一丁目百八十五番地

松森信義

印刷人

長野縣松本市本町一丁目百八十五番地

交文社

印刷所

電話三五八番

327
790

終

